

師走、って先生も走る、という字面ですが、それを地で行っている感じで、物事を完遂することができずに放置物件ばかり積み重なっている気がします。

さて、4月からはるばる年末までやってきましたが、2年目の先生たちは進路が決まった様ですし、1年目の先生たちは立ち居振る舞いに本当にしっかり感が出てきました。

働き方改革のことはありますが、自分の持ち患者の調子が悪いとちよつと居残ったりと、昭和の香りがするにせよ、個人的には嫌いではありません。休むのも仕事のうちですが、患者の容体は24時間変化し続けます。なかなか、そのバランスは難しいですけど。

知識や手技が身について、それを生かすことができるようになるには、どれくらいかかるのでしょうか。いわゆる学習曲線、というやつです。

もちろん、その学ぶ内容によって異なり、容易なものも困難なものもありますが、例えばラリンジアルマスクと呼ばれる気道確保道具の留置は、やはり100例程度が必要とか。

一般の麻酔科医が年間に担当する全身麻酔は400例程度、全部これで行う訳ではありませんから、まあ、困らない程度の技術を身に付けるのは1年位かかる、という事でしょうか。

この上にトラブル時の対応力が求められるので、あと1、2年は必要かな、という気はします。

研修医が行う種々の手技も、まあ、研修が終わるころには指導ができるくらいになって、と研修期間はうまくできているものですね。来年の3ヶ月で、仕上げてくださいね。



ステープラーって技術いるのか？って縫合器具ですが、
どんなものも難しいものですよ。